

『館林市史別巻—館林の絵馬—』の頒布について

文化振興課市史編さんセンターでは、『館林市史別巻—館林の絵馬—』を頒布いたします。

本市では、平成13年度から市史編さん事業を進め、令和3年度に全16巻（資料編6冊・特別編7冊・通史編3冊）が完成し、順次別巻を刊行しています（下記参照）。

館林市内の寺社には、200点以上の絵馬があります。人びとは祈りや感謝を込めて絵馬や額を奉納してきました。画題はさまざまで、寺社に参詣する様子、狐やムカデなど祭神に関するもの、故事、物語、戦争、農耕、祭礼など、地域の歴史や文化、信仰の様子を伝えています。

本書では館林の絵馬や奉納額についてまとめ、館林の絵馬文化を紹介します。

令和5年9月15日(金)より一般頒布します。概要は別紙のとおりです。

<参考>館林市史（全16巻）の刊行状況

刊行書名	内容予定
通史編 3巻 ※完了	◇1「館林の原始古代・中世」 ※既刊 ◇2「近世館林の歴史」 ※既刊 ◇3「館林の近代・現代」 ※既刊
特別編 7巻 ※完了	◇1「館林とツツジ」 ※既刊・在庫なし ◇2「絵図と地図にみる館林」 ※既刊・DVD版のみ ◇3「館林の自然と生きもの」 ※既刊 ◇4「館林城と中近世の遺跡」 ※既刊 ◇5「館林の民俗世界」 ※既刊 ◇6「館林の町並みと建造物」 ※既刊 ◇7「館林の文化と芸術」 ※既刊
資料編 6巻 ※完了	◇1原始古代「館林の遺跡と古代史」 ※既刊 ◇2中世「佐貫荘と戦国の館林」 ※既刊・在庫なし ◇3近世Ⅰ「館林の大名と藩政」 ※既刊・在庫なし ◇4近世Ⅱ「館林の城下町と村落」 ※既刊 ◇5近現代Ⅰ「近代館林の歩みと社会」 ※既刊 ◇6近現代Ⅱ「鉱毒事件と戦争の記録」 ※既刊
別巻 ※作成中	◇別巻 市制60周年記念写真集「写真で見る館林」 ※既刊 ◇別巻 普及版「館林の歴史」 ※既刊 教材版「ぼんちやんと学ぼう 館林の歴史」 ※既刊 ◇別巻「館林の寺社と史料」 ※既刊 ◇別巻「館林の里沼」 ※既刊 ◇別巻「館林の絵馬」(別巻5巻目) ※新刊

○館林市史編さん事業では、令和3年度に『館林市史』全16巻（資料編6冊・特別編7冊・通史編3冊）が完成し、現在は別巻を作成中です。今後は、別巻として市制施行70周年記念誌や寺社建造物編・仏像編などを刊行していきます。

◇申し込み・問合せ先

館林市教育委員会文化振興課 市史編さんセンター

〒374-0018 群馬県館林市城町2-3（第二資料館内）

TEL・FAX 0276-76-7651

E-mail shishihensan@city.tatebayashi.gunma.jp

<別紙>

『館林市史別巻—館林の絵馬—』の内容

1 概要

- ①大きさ B5判
- ②ページ数 250ページ（オールカラー）
- ③発行部数 1,000部

2 作成の目的

館林市にはどのような絵馬があり、何が描かれているのかをまとめることで、館林の地域性や信仰の歴史を読み解きまず。特に作品数が多い館林在住浮世絵師・北尾重光については、その作品を市外のものまで含めて詳しく紹介し、館林を中心とするこの地域の絵馬文化を理解できるようにしています。絵馬は市内約220点、市外約50点を掲載しました。



3 全体構成と主な内容

◆第一部 奉納された絵馬

- 第一章 絵馬の歴史と民俗 絵馬の起源と信仰／発掘された絵馬／絵馬と奉納額／絵馬の奉納と画題
- 第二章 絵馬と館林（館林市内に残る主な絵馬を内容や描かれ方などから分析） 館林の絵馬の特徴／絵馬の画題と図像／絵馬の制作者と奉納者
- 第三章 北尾重光の活躍（市内外にある北尾重光の絵馬約160点を表でまとめ、市内外の主な作品や業績を紹介） 北尾重光の生涯と画業／北尾重光・重輝父子の活躍した時代／館林市内における北尾重光の絵馬／群馬県における北尾重光の絵馬（明和町三嶋神社、千代田町八幡神社、板倉町雷電神社、邑楽町明言寺など）／埼玉県における北尾重光の絵馬（羽生市雷電神社、加須市徳性寺、熊谷市伊弉諾神社など）／茨城県・栃木県における北尾重光の絵馬（古河市尊勝院、栃木市太平山神社など）

◆第二部 奉納額にみる祈願と地域社会（館林の奉納額約210点を表でまとめ、主なものを紹介）

- 第一章 奉納額と館林 奉納額の特徴／奉納額にみる地域社会
- 第二章 社寺参詣と俳諧 社寺参詣の奉納額／俳諧の奉納額
- 第三章 奉納物にみる祈願・現世利益 奉納の季節と現世利益／戦争の奉納額／奉納物の移り変わり

◆第三部 資料編 館林の絵馬集成（館林の絵馬約220点を写真付きで紹介）

館林地区（青梅神社、尾曳稻荷神社、長良神社、観性寺など）／郷谷地区（当郷神社など）／大島地区（大島神社など）／赤羽地区（子神社など）／六郷地区（富士嶽神社、遍照寺など）／三野谷地区（雷電神社など）／多々良地区（大谷神社など）／渡瀬地区（赤城神社など）

★重要ポイント1 館林市内に残る絵馬の特徴

館林市内に残る絵馬は約220点確認されています。館林市史編さんセンターでは平成27年度から市内の寺社40か所にある絵馬の調査を行ってきました。今回はその調査で得られたデータをもとに、館林市内の絵馬について網羅的にまとめました。



ムカデと梅樹絵馬 赤城神社（足次町）所蔵

館林市内の絵馬の特徴として、狐やムカデを描いた絵馬があることが挙げられます。狐やムカデは眷属（けんぞく）、つまり神の遣いです。稲荷神社は狐、赤城神社はムカデを眷属としており、それらの神社が多い館林市ではそうした絵馬がみられるのです。そのなかでも、館林市指定重要文化財の「ムカデと梅樹絵馬」（赤城神社（足次町）所蔵、北尾重光作）はムカデが大きく描かれ、館林市を代表する絵馬の一つと言えます。

★重要ポイント2 北尾重光の存在

館林市内に残る絵馬を調べていくと、非常に多くの神社に北尾重光（きたおしげみつ、1814～1883）という人物が描いた作品がありました。北尾重光は江戸出身の浮世絵師で、館林に移り住んで画業を営み、絵馬を大量に描いていました。浮世絵師という出自からか、精緻で美しい作品を描いており、他の絵馬と比べて北尾重光の作品は一線を画す出来栄です。その活躍の一方で、人物に関する資料がほとんど残っておらず、謎の多い人物でもあります。



館林城絵馬 尾曳稲荷神社（尾曳町）所蔵

北尾重光の名声は館林にとどまらず、広く知られていたようで、邑楽郡内や埼玉・茨城・栃木県にもその作品が分布しています。そうした分布と市外の主な作品もまとめました。

北尾重光の代表作として有名なのが館林市指定重要文化財「館林城絵馬」（尾曳稲荷神社（尾曳町）所蔵）です。明治6年（1873）に描かれたこの絵馬は、館林城内と城下町を鳥瞰（ちょうかん）で描いており、建物が細かく描かれています。城沼とそこからつながる堀も印象的に描かれ、当時の館林城の状況を知ることができます。館林城は明治7年に焼失していることから、最後期の館林城を描いたものとして、歴史的価値も高い作品です。

4 その他

①執筆者

館林市史専門委員会の専門委員・調査員 11名

②頒布の内容

- (1) 頒布価格 1冊 2,000円
- (2) 頒布開始 令和5年9月15日(金)より
- (3) 頒布部数 500部
- (4) 頒布場所 市内公共機関…市史編さんセンター（第二資料館内）・文化会館・図書館・向井千秋記念子ども科学館・田山花袋記念文学館・市内各公民館・群馬県立館林美術館ミュージアムショップ
市内書店…宮脇書店アゼリア店

※遠隔地の方は郵便振替による購入が可能。電話・FAX・Eメールで受け付ける。